

令和7年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・**最終**)

両城中学校区 校番 14 学校名 呉市立両城中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	目標、指標は、年度初めに設定されたものが維持されている。職員間での、相互の認識がなされていることを評価する。 次年度の目標、指標の設定が発展的になることを期待したい。発展的とは、量とともに、その質も考慮されることであろう。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策は、適切である。それぞれの教職員が、よく考えて教育の実践がなされていることが伺われる。この目標達成のための方策は、各教職員が理解し、相互認識とそれに基づく教職員の実践がなければ、意味をなさないところ、これを肯定できる。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	自己評価の結果は、よく分析されている。予断のない現実的な分析であると評価する。 今後もこの自己評価の結果が正しく分析されることを期待したい。結果の分析が正しくなされなければ、次年度の目標、指標の設定が適切なものにならない。分析の重要性を教職員が十分に理解することが肝要である。
今後の改善策(案)の適切さ	A	改善策も、評価できる。改善策を確実に実行することが期待される。各教職員が改善策を確実に認識し、またそれを共有して実行することを期待したい。表面的な実行ではなく、生徒たちに確実に浸透するものであって欲しい。 自己評価において、達成できなかったものも次年度に向けて努力することを続けて欲しい。
その他		生徒が落ち着いて学習していることが、確認できた。また、教職員のそれぞれの授業がタブレットその他を効果的に利用していることも理解できた。 学校運営協議会が今年度から発足し、委員もより責任ある立場になった。真摯な立場から、学校運営をよりの確に評価しなければならないと思われる。学校運営協議会がより充実したものになり、生徒、学校とともに成長することを改めて自覚する1年であった。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○本校の取組について評価をしていただいている中、目標や方策、指標について教職員間で改めて共通認識をもったり必要に応じて軌道修正や深化を図ったりすることができるよう再度確認し、特に次のことに重点をおいて教育活動を進めていく。</p> <p>【確かな学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きQubenaの積極的な活用等により、主体的な学びを推進する。 ・考える授業づくりを推進し、主体的な学びを実現する。 <p>【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生徒会執行部を中心に、生徒の主体的で自治的な活動を推進する。 ・ボランティア活動の機会を意図的に増やし、マイスター制度を生徒主体にする。 <p>【健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識し、自分の生活を自らコントロールする力を向上させる。 ・地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育に年間を通じて取り組む。 <p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互の日常的なOJTにより教職員一人一人の資質・能力を向上させる。
--------------------	--